（施策評価表66）

【施策番号Ⅳ－13－②－1】

取組みの方向性	百年の礎を築く	戦　略	【戦略13】環境を豊かに ～環境意識と行動を高めていきます～ ②県民一人ひとりの環境意識の醸成と環境活動の実践	主な施策	◆地球温暖化対策・エコ活動を進める ～県民総ぐるみによる地球温暖化対策とエコ活動の更なる推進～

1 取組内容	2 主な事業（上段：H25事業 下段：H24事業）	担当課	H25予算（千円） H24決算（千円）	3 平成24年度の主な成果	4 平成25年度の推進方針・推進状況	5 施策を推進する上での課題	6 今後の方向性
・ 日々の生活や企業活動を熊本の気候や風土に適し、省エネなど環境に配慮した熊本らしいライフスタイル・ビジネススタイルへと転換するために、地域や事業所全体での環境配慮行動となるよう具体的な行動の提示や普及啓発を行い、県民総ぐるみでのエコ活動の実践につなげます。	地球温暖化対策推進事業	環境立県推進課	2,906	・ストップ温暖化県民総ぐるみ運動推進会議の会員数が、各種イベントでの案内配布、事業所へのFAX等での勧誘等により、304から345へと増加し、地球温暖化対策への意識の広がりが見られた。 ・熊本らしく環境配慮を行うかたちを「くまもとらしいエコライフ」として掲げ、その理念を普及するため、「くまエコ学習帳」を作成。県内全小学5年生に配布するとともに、これを活用した公開講座を実施（15回）するなどの普及啓発を行い、身近にできる環境配慮行動に対する県民の理解が進んだ。 ・くまもと環境賞に大賞（隔年実施）及び部門賞（５部門、毎年実施）を設け、環境活動における功績、先進的取組みなどを広く県民に紹介することで、県民の環境配慮活への意識向上につながった。 ・「くまもとEco燃料拡大推進研究会」の開催、バイオマスアドバイザーの派遣により、バイオマスへの理解の促進やBDF製造事業者のレベルアップが図られた。	・省エネ・環境配慮型のライフスタイルである「くまもとらしいエコライフ」を県民運動として展開することについて、ストップ温暖化県民総ぐるみ運動推進会議における合意が図られた。 ・ストップ温暖化県民総ぐるみ運動推進会議の会員間の連携、情報共有等による組織の活性化を図るとともに、「アイドリングストップ宣言事業所」等関係団体へのさらなる勧誘により会員増を図り、県民運動の幅広い展開につなげる。 ・バイオマス利活用推進として、研究会・アドバイザー派遣・BDF分析の取組みを継続するとともに、民間事業者によるBDF製造等の取組みを国の補助制度の活用などにより支援する。	・「くまもとらしいエコライフ」の理念の周知啓発は緒に就いたばかりであり、県民生活全体への広がりを見せるためには、今後も効果的な周知啓発を行う必要がある。 ・バイオマス利活用推進について、全県的な取組みをけん引する、具体的な成功事例を示していく必要がある。	・学校・家庭に対し、「くまエコ学習帳」等の活用、各種イベント、表彰、情報発信等により、効果的な周知啓発を図る。 ・事業所に対し、ストップ温暖化県民総ぐるみ運動推進会議の会員増を図る。 ・バイオマス利活用推進について、バイオマス資源の利用率が向上し、バイオマスが身近なエネルギー資源として、県民・事業者の日々の生活に位置付けられるよう取組みを進めていく。
	くまもとらしいエコライフ普及促進事業	環境立県推進課	9,252 5,031				
	環境立県くまもと推進普及啓発事業	環境立県推進課	4,049 3,707				
	バイオマス利活用推進事業	環境立県推進課	1,709 1,559				
主な施策のまとめ				●ストップ温暖化県民総ぐるみ運動推進会議の会員数が304から345へと増加。 ●「くまエコ学習帳」を活用した公開講座（15回）の実施等により、「くまもとらしいエコライフ」の意識づけが進展。	●県民、企業、団体等をあげて「くまもとらしいエコライフ」を県民運動として展開。 ●会員間の連携、情報共有等で組織を活性化することによる、ストップ温暖化県民総ぐるみ運動推進会議の会員増加。	●「くまもとらしいエコライフ」の理念を県民生活全体へ広げるための効果的な周知啓発。 ●「くまエコ学習帳」は、学校・家庭における普及啓発には対応しているが、事業所に関する要素が十分ではないため、この対応を進めていくことが必要。	●「くまエコ学習帳」等の活用、各種イベント、表彰、情報発信等による学校・家庭への効果的な周知啓発。 ●事業所に対するストップ温暖化県民総ぐるみ運動推進会議への参加勧誘と事業所版「くまもとらしいエコライフ」の周知。